

巻頭言

学長 馬場 忠雄



この度、滋賀医科大学看護学ジャーナルが電子ジャーナルとして発刊されることになりました。電子ジャーナルにすることに対して少なからず抵抗があったのではないかと思います。私のように、紙ベースで生きてきたものにとっては、馴染みにくいものであるからです。しかし、時は流れ、医学関係の雑誌は、ほとんど電子化され、迅速に、また検索も容易となり、必要なところは最小限プリントすることで、かえって使い易くなってきています。そして次第に馴らされてくるように思います。本学では各種の会議においても iPad を用いており、紙の使用を削減する取り組みにご協力いただいております。

電子化することにより、Web でどこからでも検索でき、無料で海外からでも利用が可能となります。大学のリポジトリから出しているのも、データを載せる作業は人件費のみで、印刷経費はかからない利点があります。自分の業績が出版経費をかけずにPRできます。しかし、紙媒体の場合は製本したものが残りますが、電子媒体の場合、ホームページを変更したときなどに無くなる不安があります。

滋賀医科大学看護学ジャーナルで外部からアクセスされたページビュー数は、2011年1月1日から2011年12月31日までに2,666件にのぼります。このように月間200件以上も閲覧されています。しかし、今までは、コメントなどが書き加えられたものはないようです。

これから電子ジャーナルの質を高め、広く多くの皆様に閲覧いただくには、質のよい論文を載せることです。よい論文を多く集めることにより、多くの人に読んでもらう機会が増えます。また、外部からの検索に対して、ヒットする工夫も必要です。今回は、英論文2編、特別寄稿を含む和論文14編と今まで以上に充実してきました。これを契機に、定期的に年1回とは言わず2回に増やして、本学関係者のみならず、県内あるいは県外からも投稿を積極的に受けいただき、滋賀医科大学看護学ジャーナルが生まれ変わり、質的にも高い評価が得られることを期待します。

平成24年2月